カリキュラムとGraduation Policy(GP)との相互依存関係一覧表

記入者名	
記入年月日	2006年4月1日
学部・研究科名	人文学部
学科・専攻等名	人文社会学科
コース等名	社会情報論コース

学部〔学科〕の教育目的〔具体的に記述・箇条書き〕	コースの教育目的〔具体的に記述・箇条書き〕
学部の教育目的：時空の広がりの中における人と社会〔世界〕の営為を根底から問い、それを的確に表現できる人間を養成する。 学科の教育目的：思想・歴史・社会の諸相を探究し、それを的確に表現出来る人間を養成する。	1．現代社会や地域社会における課題を見出し、その社会的特質を把握する能力を養う。 2．自らと自らが生きる社会〔集団〕を相対化できる広い〔国際的〕視野を養う。

コースのカリキュラム			コースのGraduation Policy(GP)　〔◎＝ＧＰ達成のために、特に重要な事項、○＝ＧＰ達成のために、重要な事項、△＝ＧＰ達成のために、望ましい事項〕								
授業科目名	授業科目の主題〔箇条書〕 （この授業科目における中心となる題目・問題・テーマ等を箇条書に記入する。）	授業科目の到達目標〔箇条書〕 （この授業科目の学習後に到達すべき最低限の〔行動〕目標を学生が主語で行為動詞を使用して箇条書に記入する。）	日常社会の中に見られる現代社会や地域社会の諸問題を発見できる。	人と人、人と社会、人と文化との関わりを理解できる。	日本社会をアジアの中に位置付け、近現代史を踏まえて他の地域社会と比較できる。	社会調査の技法を学び、社会問題を客観的に分析する方法を修得する。	地域社会のニーズに応え得る能力を獲得し、問題解決に貢献できる資質を養う。	自らの学習成果を調査報告書や学術論文の形にしてプレゼンテーションすることができる。			
社会学概論I	社会学における基本概念と理論的視角、並びにそれらを通して現実の社会や具体的な社会現象がどのように分析・解明されるのかという点を学ぶ。前期には、主に現代産業社会のマクロな構造と過程について概観する。	(1) 社会学の基本概念や理論的視角を学ぶ。 (2) 社会学の概念と方法を用いて、現代社会の構造と変動を解明する。	○	○							
社会学概論II	社会学に特徴的な研究方法としての社会調査とはどのようなものか、その基本を理解しながら、社会学的ものの見方を知る。	社会学とはどのような学問であるかを理解する。社会学に特徴的な研究方法としての社会調査について基本的な理解ができる。	○	○		○					
現代社会論	産業都市における企業組織とコミュニティの関わりを、前期・後期通して、テキストを使って具体的な事例を紹介しながら考察する	産業都市の企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、よりよいまちづくりについて考える。前期は特に環境問題に焦点をおく。	○	○							
現代社会論	産業都市における企業組織とコミュニティの関わりを、前期・後期通して、テキストを使って、具体的な事例を紹介しながら考察する	産業都市の企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、よりよいまちづくりについて考える。後期は特に企業の地域社会への社会貢献に焦点をおく	○	○							
現代社会論	「高齢社会：調整と対応」をテーマとして、高齢社会はどのように登場し、進展していくのか、その中でどのような問題が生じるのか、を概説する。また、その対応策〔社会保障・社会福祉サービス〕について考え、議論する。	(1) 高齢社会、少子化などについて基本的に理解する。 (2) 高齢者をめぐる社会保障、社会福祉サービスについて基礎的な論点を理解する。 (3) これからの日本の社会の高齢者サービスについて問題意識、関心をもって考えていく。	○	○							
現代政治社会論	戦後日本社会の急激は変容ぶりは、戦後日本人の意識構造にも決定的な影響を及ぼした。本講義では、そのなかで特に戦争観や平和観の変容に焦点を当てて、考察を加えていく。それは同時に戦後日本人の政治観や国家観をも問う試みとしてもある。そのことを通して、最終的には国家と人間、市民社会と市民の相互関係の理想的かつ合理的な関係を模索していきたい。	(1) 戦争観や平和観が何を媒介として形成されていくか認識を深める。 (2) 国家や社会を対象化する手法を獲得していく。(3) 自らの言葉で戦争・平和・国家・社会を語れる素養を身につける。			○						
現代政治社会論	現代の政治社会における人間の所在と位置について考察していく。そこでは国家と人間、社会と人間、組織と人間などを大きなテーマとして設定しつつ、現代社会における人間の営みの理想型を模索していく。	「人間は政治的かつ社会的な存在」である限り、私たちは政治とは無縁で有り得ない。まらば。政治社会にあって、これと豊かにコミットしていくための処方箋が不可欠である。本講義は、言うならばその処方箋探しの場となるであろう。			○						
現代政治社会論											
コミュニティ論	近現代都市における貧困、階層格差の問題と、都市下層の生活実態や共同性の位相、さらには都市下層社会の変容について、社会学的な調査記録や調査データに依拠しながら、概観していく。	(1) 近現代の欧米や日本における都市化を、都市下層社会の変容という視点から見つめ直すことによって、都市化過程の重層的な理解を促す。 (2) 現代社会における階層格差のありようを、社会学的なデータに基づいて理解し、都市問題、社会問題に対する関心を深める。	○	○			○				
社会学演習	日本の近代化と社会変動に関するテキストを分担して、レポートし、研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。各自の研究テーマを明確にし、テーマに基づく文献を読む	日本の近代化と社会変動に関するテキストを読み込み、理解し、各自の研究テーマを見つける	○	○			○				
社会学演習	各自の研究テーマを明確にし、テーマに基づく文献を読み、レポートし、研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。	現代社会と社会問題に関する文献を各自読み込み、理解し、各自の研究テーマを明確化する	○	○			○				
社会学演習	環境問題と地域社会、市民生活との関係を扱った社会学の文献を取り上げ、受講生全員で読んでいく。特に、河川や水と人間生活との関わりが近代以降どのように変化してきたのか、それは何故か、また、環境保全のためにどのような取り組みが行われており、市民・住民、行政、企業といった各主体が今後どのような役割を果たし、いかに連携すべきなのか、といった点を皆で議論しながら考えていく。	(1) 現代における環境問題の実態とその原因を、社会学の視点から理解する。 (2) 環境保全への取り組みの現状・課題を理解するとともに、環境問題とその解決への道筋を、われわれの日常生活世界のありようと関連づけて考える。	○	○			○				

社会学演習	近年注目を集めているボランティア活動やNPO活動など市民活動の社会的機能、現状と可能性などについて社会学的な考察を加える。テキストを読みながら、受講生自身による報告と質疑、討論によって授業は進められていく。同時に、3年生には、卒業論文作成に備えて、各自の研究テーマに沿った研究報告をしてもらう。	(1) ボランティア活動やNPO活動など市民活動の社会的機能、組織や担い手の特性、現代的意義、可能性などを社会学的に分析し理解することを目標とする。 (2) 各自の研究テーマを深め、卒業論文作成の準備を進める。	○	○			○					
社会学演習(4年生)	本演習では、4年生の卒業論文作成に向けた指導を行う。	受講生が、自分自身で設定した研究課題にしたがって、卒業論文を執筆できるようにする。	○	○			○	○				
社会学演習(4年生)	本演習では、4年生の卒業論文作成に向けた指導を行う。	受講生が、自分自身で設定した研究課題にしたがって、卒業論文を執筆できるようにする。	○	○			○	○				
現代政治社会学演習（3年生）	いま、日本社会はポスト冷戦の時代と言う名の「第二の戦後」を迎えている。1950年代以降の日本社会は、冷戦構造に規定されてきた特殊日本的な社会構造を特質としている。その社会構造のなかで現行憲法の平和主義に形骸化が公然と進められ、安保が憲法に優越する存在としてすら存在してきた。同時に、冷戦構造に後押しされた戦後日本の保守体制と保守思想は、日本社会をして”経済的繁栄”を結果させる一方で、種々の非人権的な諸相を様々な領域で露呈させる要因ともなった。唯一の「冷戦構造の受益者」としての日本人は、冷戦構造を背景として成立した軍事政権の権威主義的支配に苦しめられているアジア民衆との間に埋めがたい距離を創り上げてきた。その日本人も、戦後社会に冷戦構造を支えにもたらされた高度成長経済体制のなか、企業によって支配された日本国家に対置する自己を確立し得ないまま、依然として「市民」としての意識も行動力も持ち得ていない。本演習では、こうした問題意識を念頭に据えつつ、以下のようなテーマで出席者全員で報告と討論を重ねていきたいと思う。	出席者が現状分析において明確に自己の見解を表明できるようになること、相互のコミュニケーションに果敢に取り組むスタンスを身につけることを第一の目標としていきたい。そして、論旨が明快な文章執筆能力の向上に資するために新聞記事の解読など並行して進めていく。	○	○								
現代政治社会学演習（3年生）	前期での報告を踏まえて、年度末までに以下の日程で額縁ゼミ誌『現代政治社科学論集』に寄稿する小論種の執筆に全力をあげる。従って、後期の報告内容は、小論文の区尾性内容を前提としたものとする。	10月より各自の報告を行う。12月8日（日米開戦日）までに草稿を完成させる。1月28日までに完全原稿を提出する。2月から編集作業を開始し、3月初旬に発行する。	○	○								
現代政治社会学演習（4年生）	演習参加者各自の問題意識がクリアに反映された課題を設定し、文献・資料を収集・精読する作業を通して卒業論文の作成を目標とする。	社会学領域の論文の執筆活動を通して、将来逞しい「市民」として自立していくための機会とする。そこでは大いなる批判精神や説明能力の習得を求めたい。	○		○		○					
現代政治社会学演習（4年生）	説得的かつ論理的な論文の執筆	論文の作成とゼミ誌『現代政治社会論』の発行	○		○		○					
現代政治社会学演習（2）	世界最後のチベット仏教王国であるブータンの現代史を、インド北部、ネパール、チベットなどの地域からなるヒマラヤ地方のなかに位置づけ、そのうえで、1964年のブータン首相暗殺事件と1974年のブータン国王暗殺未遂事件の関連を考察する。	ノン・フィクションを歴史のなかにどのように位置づけ、資料・史料のない分野の歴史をどのように埋めていくかについて考察することを目標とする。	○	○	○							
現代政治社会学演習（1）	ブータン現代史最大のなぞと言われている1964年のジグメ・ドルジ首相暗殺事件と、ほとんど注目されていない1974年ジグメ・センゲ・ワンチュック国王暗殺未遂事件との関連を、同時代をブータンの政務官として過ごしたインド官僚の追想から考察する。	個人の経験と記憶が歴史のなかでどのように位置付けることができるかという、個人的なものの位置付けを、ブータン現代史を例に自分で試みることを目標とする。	○	○	○							
現代政治社会学演習（1）	多民族国家ではないと考えられている現在の日本社会に生きていると、民族という概念について考察する機会はあまりない。それは日常生活のなかでほとんど必要とされていないからだと考えられるが、一方、日本人論は、たとえば日本語ということばに焦点を当てるような形で、絶えず再生産されているかのような状況にある。この授業では、ユダヤ教徒がユダヤ人となっていく過程を追いながら、近代の産物である民族の歴史性と虚構性について考えていく。	いわゆる近代のユダヤ人問題を扱いつつ、社会科学の基本となる用語、たとえば、民族、国家、アイデンティティーなどについて、それらを自明のこととせず、自分のことばで理解することを目標とする。	○	○	○							
現代政治社会学演習（2）	近代主義からユダヤ民族主義へ向かい、シオニズム運動の中心的人物となったテオドール・ヘルツルを中心に、当時のロシア、ドイツ、ポーランドなどの社会状況と彼の思想的背景を探っていく。	ひとりの人間の思想の変容とその背景を理解することで、ユダヤ人問題を構成する歴史の一部分を重層的に理解することを目標とする。	○	○	○							
社会学調査実習	社会学的社会調査の方法を学び、仮説の検証のための社会調査を実施する。	研究目的の社会調査を経験することによって、社会調査の目的・方法・結果の利用を学習する				○	○	○				
社会学調査実習	具体的なテーマを設定し、社会調査の方法にしたがって、調査を実施する。調査テーマの設定、テーマにかかわる資料収集と事前学習、調査手法の検討、調査票の設計、ラポール、調査によるデータの収集と整理・分析、調査報告書の執筆、という一連のプロセスを、実習形式で修得していく。なお、本年度は、「環境問題と地域社会」をテーマに、主として、河川環境整備や資源リサイクルに取り組んでいる市民活動グループを対象に、聞き取り調査を実施する予定である。	社会調査の方法を学習し、受講生自身が、グループで協力しあいながら、社会調査を企画・実践できるようにする。	○	○		○	○	○				

社会心理学概論I	社会心理学は、社会学や心理学のみならず、人類学、政治学等々の学問からなる非常に学際的な研究領域である。この講義では、「ケータイ」という日常的な題材を取り上げながら、これまでの社会心理学研究における基本的問題や知見について紹介していく。	1) 社会心理学の基礎概念について学ぶ 2) 社会心理学の学説史を学ぶ 3) 社会心理学の多様なアプローチについて学ぶ 4) 現代社会の諸問題と社会心理学のかかわりを考える	○	○								
社会心理学概論II	社会心理学においては、社会調査はきわめて重要な意味を持っている。本講義では、社会調査に必要な理論と技法について学ぶ。	(1)社会心理学に必要な社会調査の方法についての知識、技法について学ぶ。 (2)視聴率や政党支持率などがいずれも現在では社会調査の理論を使ってなされていることを学ぶ。				○						
コミュニケーション論	コミュニケーションが問われる場合、「情報の共有」や「情緒的結合」が理念的前提とされていることが少なくない。しかし、こうした前提は、必ずしも現実的ではないし、諸々のコミュニケーション現象を説明する上で、困難に直面してしまうことになる。授業では、これらの観点から古典的コミュニケーション論の限界と、新しいコミュニケーション論の出発点について、検討を進めていく。	1．古典的コミュニケーションモデルの限界を認識する 2．メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する 3．公共圏や民主主義、社会システムなどについて、新たな議論を展開するための基礎をつくる4．パワーポイントを用いたプレゼンテーションやメーリングリストによる討論の方法を学ぶ	○	○								
現代社会意識論	現代の日本社会は大きな変革期にかかっているが、そのために犯罪や自殺などの逸脱行動が多様化し深刻化もしている。こうした逸脱行動は、社会病理現象ともたらすが、この講義では社会病理や逸脱行動が何故生じるのか、逸脱行動の理論を通して学ぶ。	1) 逸脱行動や社会病理の学説・理論について理解する。 2) それを生かして現実に起こっている現象を如何に説明するかを学ぶ 3) こうしたさまなざまな逸脱行動が生じないようにするにはどのようなことが必要かを学ぶ	○	○								
現代社会意識論	高齢化社会が抱える問題について考える	(1)高齢化がもたらす意味とその社会心理学的諸問題についての知識を身につける。 (2)高齢化社会の問題への対応を考え、それへの適切なあり方を考える態度を学ぶ。 (3)生涯現役に向けての諸方策を捉え、あるべき方向性を考える。	○	○								
現代社会意識論	現代は嗜癖的（addictive）な時代と言われる。その実態と背景について学び、かつこれらの問題をどう考え対処していったらいいのかを考える。またこれらの問題を家族問題の視点から捉え直し、家族サポートの問題についても学ぶ。	1)現実の具体的問題に即して社会病理学の中でも、臨床社会学と言われる昨今注目を集めている分野の最新知識を習得する。 2)臨床的な事柄を社会学的にどう取り扱い得るかを学ぶ過程で、具体的経験を一般的な知へと展開する仕方について学ぶ。 3)実践例を提示したり問題解決志向性を強調することで、応用科学への関心を高め、そのセンスを磨く。	○	○								
社会心理学演習	3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。授業では、逸脱行動論の代表的な文献の幾つかを外書購読や訳書の購読から、それらの理論の特徴と問題点を洗い出し、現在の逸脱行動のなかで捉えることを学びます。	(1)レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。 (2)専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。	○	○			○	○				
社会心理学演習	3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。授業では、高齢化社会の進行のなかで地域社会がどのような課題を抱えているか考えます。	(1)レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。 (2)専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。	○	○			○	○				
社会心理学演習	現在、青少年犯罪の凶悪化や低年齢化がまことしやかに囁かれている。しかし、都合のいいように加工されたグラフやショッキングな映像の数々は、不安を売り物にするマスコミと予算獲得をねらう省庁との合作劇であることも少なくない。この授業では、歴史社会学的観点から、「不良少年」や「非行少年」というまなざしの誕生とその制度化について考察していく。	1．「青年期」の歴史的背景について学ぶ 2．逸脱をめぐる諸々のアプローチについて学ぶ 3．歴史社会学の視座を学ぶ	○	○			○					
社会心理学演習	3年生は卒論の執筆準備のための先行研究レビューを行う。4年生は資料、データの処理、分析、執筆報告を行う。	卒業論文を作成するための基本的ノウハウを学ぶ	○	○			○	○				
社会心理学調査実習	社会心理学調査とは何かを学び、調査の方法、問題意識と調査、調査票の作成、フィールドワークの経験を主たる狙いとする。	(1)社会調査のための基礎的な知識を身につけ、調査票の作成をおこなう。 (2)調査地との関係を形成して、実際にフィールドワークを経験する。				○	○					
社会心理学調査実習	この授業においては、前期の授業において収集した調査データについて、学生自身が実際に、記述や分析、報告を行う。また、必要な場合には、補足調査も行ったうえで、報告書を作成する。	1．実際に調査を企画し、実施し、報告書を作成するまでのプロセスを体験することによって、自らが調査を実施していく能力を身につける。 2．調査データの性質や意味を十分考慮し、公平かつ客観的に現象を記述する態度を身につける。 3．社会心理学の理論と調査研究とを相互に往復する思考様式を身につける。				○	○					
社会調査データ解析法	社会調査におけるデータは、はじめから「客観性」を保証されているわけではない。調査項目やサンプリングの方法、質問文の表現や回答法、データの分析技法やその解釈等々によって、巨大な「ウソ」が作られることは、決して珍しいことではない。日本社会においては、予算や補助金獲得のために、または問題隠蔽や責任回避のために、あるいはイデオロギーの補強のために、連日のように「ウソ」が量産されているのが実情である。授業では、そうしたデータの産出を批判的に吟味するとともに、調査データに関する基本的な取り扱い方法について学ぶ。	1．官庁統計や簡単な調査報告書・フィールドワーク論文が読めるための基礎的知識を習得する。 2．度数分布やクロス集計、相関係数などについて、それらの計算や図表作成を実際に行う技能を身につける。 3．調査データに対する、社会科学者としての倫理観、責任感を養う。		○		○	○					
質的調査データ解析法	社会調査のうち、質的調査(qualitative survey)によるデータ収集・解析の手法について、基本的な知識を学ぶ。質的調査の方法的特徴、データ収集の技法、調査方法としてのメリットと留意点、データから知見を導き出す手法（分析方法）、などについて、優れた先行研究の事例を参照しながら、学習していく。	社会調査における質的調査の特徴やデータ解析の方法について、基本的な知識を身につける。	○	○		○						

比較社会文化論I	ことばは単にコミュニケーションの手段ではなく、個人のアイデンティティーや、文学などを通じた言語共同体の文化そのものを形成している。このようなことばの多面的な側面を、世界のさまざまなことばを通じて紹介し、ことばと人間とのかかわり、ことばと社会とのかかわり、ことばの政治性などについて明らかにしていく。ここでは、ことばの言語学的側面ではなく、社会的政治的側面に焦点を置いた講義を行なう。	日本社会に生きていると、ことばについてさまざまな誤解や幻想を抱いている。それは、日本社会がいわゆる単一言語社会と形容されるような言語状況にあることと無関係ではない。したがって、ここでは多言語社会と形容されるさまざまな地域の事例を通じて、ことばをめぐる人間の能力の可能性を認識することを目標とする。	○	○	○							
比較社会文化論II	民俗学者の宮本常一著『忘れられた日本人』を素材とし、こうれに他の民俗事例を加えて、日本の地域社会・文化の多様性を見る。そして現在の日本の姿との対比をする。	1．『忘れられた日本人』の記述（当時の）に見られる日本の地域社会・文化の対比・比較をする。 2．『忘れられた日本人』に記述された社会・文化と現代の社会のありようとの対比・比較をする。 3．上記1．2．を通じて、現代の日本の社会・文化の姿を再考する。	○	○								
アジア比較社会論	牛糞を燃やし、多数の貧困層を擁しつつ、核兵器を持ち、最先端のコンピュータ・ソフト産業が急成長する大国インドを、その戦略、指導者たちの動向・思考を通して、政治、経済、軍事、外交などの多方面から分析する。アメリカの世界戦略との関連が中心となる。	日本人のあいだに根強くはびこっている偏見に満ちたインド像から離れ、従来のインド認識を覆し、アメリカの世界戦略とグローバリゼーションのなかで、現在進行形のインド社会を理解する。	○	○	○							
アジア比較社会論	いわゆるヨーロッパ近代国家とは異なる歴史を経つつも、政教分離で世界最大の民主主義国家を誇るインドの現在を、その指導者たちの動向・思考を通して読み解く。とりわけ、南アジア地域政治内におけるインドの位置付け、アジアの大国としてのインドという側面を中心に講義する。	軍事大国としてのインド現代史を理解すること、および、アジアの国際政治における国家理念、政治文化が占める位置について、新しい視点をもつことを目標とする。	○	○	○							
現代民俗論	現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようを考えることをめざしています。この授業では、民俗の1つとして祭を取り上げ、ビデオ等の映像を用いつつ、各地に伝えられている祭の様子を紹介するとともに、祭のもつ多様性や現代的意義を考えます。	1．さまざまに祭が存在し現在も伝承されていることを知る 2．祭の意味や内容にも多様性があることを知り、その多様性の要因を考える。 3．祭を伝えている社会の文化や歴史のありようを探り、祭の現代的意義を考える。	○	○								

現代民俗論	現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようを考えることをめざしています。この授業では、民俗の1つとして通過儀礼を取り上げ、ビデオ等の映像を用いつつ、各地に伝えられている通過儀礼の様子を紹介するとともに、通過儀礼がもつ現代的意義を考えます。	1．さまざまに通過儀礼が存在し現在も行われていることを知る 2．通過儀礼の意味や内容をその儀礼が行われている時と場に即して理解する。 3．通過儀礼が担ってきた役割と意味を確認して、その現代的意義を考える。	○	○								
生活文化論	人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。	人間が作り出した様々なものを社会的、システム的、技術的に読み解く力を養う。	○	○								
生活文化論	人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。	人間が作り出した様々なものを社会的、システム的、技術的に読み解く力を養う。	○	○								
生活文化論	近代以降の工業化によって、生活環境を構成するもの（生活用品・生活機器）は大きく変容してきた。本講義では、近代以降に登場した家庭用生活機器・生活道具を中心に、それらの成立・発展・普及の経緯やデザインの変容について、経済的・社会的・文化的・技術的背景との関係から考察する。	生活道具のデザインが恣意的な外形上の操作ではなく、産業社会における生産と生活の形態と深く結びついた活動であることを理解する。	○	○								
文化人類学演習	文化的ひとともの関係について考える内容です。消費社会の現代ではものが記号的に扱われていますが、本来は身体の延長として実体を伴っていました。この授業ではものとひとの基本的関係を知るための方法を学び、基本的関係について考察していきます。	文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。	○	○								
文化人類学演習	文化的ひとともの関係について考える内容です。消費社会の現代ではものが記号的に扱われていますが、本来は身体の延長として実体を伴っていました。この授業ではものとひとの基本的関係を知るための方法を学び、基本的関係について考察していきます。	文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。	○	○								
民俗学演習	民俗学の基本的テキストを受講者で読み合い、討論を行うことにより、民俗学の基本的概念や思考法について理解を深めるとともに、自らの研究課題の発見を模索する。	1．民俗学上の課題追究を行うことを通じて、民俗学的発想の質を知る。 2．受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間（友人）関係を築く。	○	○				○				
民俗学演習	民俗学の基本的テキストを受講者で読み合い、討論を行うことにより、民俗学の基本的概念や思考法について理解を深めるとともに、自らの研究課題の発見を模索する。	1．民俗学上の課題追究を行うことを通じて、民俗学的発想の質を知る。 2．受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間（友人）関係を築く。	○	○				○				
民俗学調査実習	民俗調査で得たデータを処理し報告文としてまとめる能力を養成します。聞書き、スケッチ、写真撮影により収集されたデータをどのように処理すればよいか、チームによる調査で得られた多量のデータをどうまとめていくかについて、その方法を理解し実践します。最終的に報告文の形でまとめること、報告書作りのための編集を具体的に行います。	1，文字情報、画像情報のデジタル化の方法を習得します。 2，集められた多くのデータをグルーピング等によってまとめる方法を習得します。 3，自分の考えをまとめ、文章・図表・画像等で表すことを行います。 4，報告書としてまとめるための編集技術を習得します。				○	○	○				
民俗調査実習	民俗調査を実施するための基礎的能力を養成します。調査を企画し，実施に向けた準備作業を経て、実際に調査を実施し、民俗調査の要領をのみこみます。その際、受講生全員の参加による集団的調査を行う中で、自らの役割を責任をもって担いつつ調査の全体像をつかむように努めます。	1．民俗調査の実施に関する一連の手順を理解し，実行する。 2．フィールドワークを実施し、自前のデータを収集する。 3．面接調査（聞書き）を行い、話を通じて必要なデータを得る経験をする。				○	○	○				
GP項目別到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）												
総合的GP到達度判定方法（具体的に記述・箇条書き）		卒業論文の内容に関する到達目標の達成度が基準に達していること。（到達度判定基準は別表）										

卒業論文の達成度判定基準

内容に関する到達度判定		
判　定　す　る　項　目	判　定	
検討中	検討中	